

令和7年10月20日



担当課	教育政策課
担当者	浦川 靖弘 中尾 榛花
内線番号	4725・4730
直通電話	086-226-7568

お知らせ

令和7年度岡山県教育関係功労者表彰受賞者が決定しました。

岡山県教育委員会表彰規則（昭和36年岡山県教育委員会規則第11号）に基づく表彰を次のとおり行いますのでお知らせします。

記

1 概要

本県教育の振興のために教育、学術及び文化に力を尽くし、その功績が顕著であって、他の模範となる個人又は団体を表彰するものです。

なお、昭和26年が第1回であり、本年度が第76回です。

2 受賞者

個人161人（うち永年勤続功労者137人）、1団体、6公立学校

3 表彰式

- (1) 日時 令和7年10月31日（金）14:00～15:30
- (2) 場所 ピュアリティまきび 2階 千鳥
- (3) 内容 表彰式 14:00～15:00
記念撮影 15:00～15:30
- (4) 内容 永年勤続功労者以外の功労者24人、1団体、6公立学校に対して表彰を行います。

令和7年度岡山県教育関係功労者表彰候補者数一覧

区分	令和7年度		令和6年度	
	表彰者数		表彰者数	
教育職員で特に功労のあった者	3		4	
教育行政に功労のあった者	2		2	
保健体育に功労のあったもの	個人	1	1	
	団体	1	0	
生涯学習及び社会教育に功労のあったもの	個人	1	1	
	団体	0	0	
文化に功労のあったもの	個人	1	1	
	団体	0	1	
特殊な業績をあげ功労のあった者	0		0	
特に優れた教育活動を行いその業績が奨励に値する者	小	5	3	
	中	5	5	
	高	4	7	
	特	2	3	
公立学校で特に業績のあったもの	6		6	
小計	31		34	
教育職員で永年勤続し功労のあった者				
・ 小学校教育職員	33		40	
・ 中学校教育職員	13		24	
・ 義務教育学校教育職員	0		1	
・ 高等学校教育職員	45		45	
・ 中等教育学校教育職員	1		1	
・ 特別支援学校教育職員	10		13	
・ 教育委員会事務局職員	16		22	
小計	118		146	
学校医、学校歯科医及び薬剤師で永年勤続し功労のあった者	19		29	
合計	168		209	

1 教育職員で特に功労のあった者

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	いぬい ともき 乾 知樹 (60歳)	倉敷市立茶屋町小学校校長	<p>平成元年倉敷市旭丘小学校教諭、倉敷市庄小学校教諭、倉敷市第一福田小学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。</p> <p>平成21年倉敷市教育委員会学校教育部学事課学事主任、県教育庁教職員課主幹、副参事として、教育行政の推進に尽力した。</p> <p>平成26年倉敷市水島小学校長、倉敷市第一福田小学校長、倉敷市茶屋町小学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを發揮し、教職員一人ひとりを大切にする細やかな心配りや率先垂範する姿で、地域や保護者、教職員に信頼され、調和のとれた学校づくりの推進に成果を上げた。</p> <p>令和7年度から倉敷市小学校長会会長。</p>
2	まつだ のりひさ 松田 典久 (60歳)	瀬戸内市立邑久中学校校長	<p>昭和63年邑久町邑久中学校教諭、県青少年教育センター閑谷学校指導主事、社会教育主事、和気町和気中学校教諭、備前市日生中学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。</p> <p>平成23年瀬戸内市教育委員会総務学務課総括主幹、参事として、教育行政の推進に尽力した。</p> <p>平成30年備前市伊里中学校長、瀬戸内市長船中学校長、瀬戸内市邑久中学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを發揮し、教職員一人ひとりの力を引き出す組織づくり、地域や保護者との信頼関係の構築、生徒の自主性を尊重する指導体制の確立に成果を上げた。</p>
3	ふじい しょうご 藤井 省吾 (60歳)	岡山県立倉敷天城高等学校校長	<p>平成2年成羽高等学校教諭、備前高等学校教諭、備前緑陽高等学校教諭、岡山朝日高等学校教諭を歴任し、教育実践に努めた。</p> <p>平成30年玉島高等学校教頭として校長をよく補佐し、円滑な学校運営に尽力した。</p> <p>令和2年県教育庁教職員課参事として、教育行政の推進に尽力した。</p> <p>令和4年倉敷天城高等学校長として、優れた学校経営を行い、豊富な経験に基づく判断力とリーダーシップを発揮し、国からの研究指定を受けた科学技術人材育成システム改革を先導する先導的改革期のスーパーサイエンスハイスクールの取組や、中高一貫教育などの先進的な教育実践に成果を上げた。</p>

2 教育行政に功労のあった者

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	とくなが あきのぶ 徳永 昭伸 (73歳)	和気町教育委員会教育長	<p>平成30年5月和気町教育委員会教育長に就任し、在職7年5月の間に、子どもたちの豊かな心や主体的に学ぶ意欲を伸ばし、未来社会をたくましく、しなやかに生きる力を育むことを目指し、教職員のICT活用力を向上させるための研修を実施するとともに、他校に勤務する教職員の授業実践やICT活用事例をオンラインで共有できる場を設けるなど、ICTを軸とした学習環境や質の高い教育環境の整備に尽力した。</p> <p>また、国際化が進む社会に対応するために発達段階に応じた英語教育や、児童生徒を対象とした公営塾の設置、人権教育にも力を注ぐなど、総合的な教育行政の推進に貢献した。</p>
2	あおの たかはる 青野 高陽 (57歳)	美咲町長	<p>平成30年12月美咲町長に就任し、在職6年10月の間に学校施設の整備に尽力した。特に空調設備の整備を推進し、普通教室及び特別教室の設置率を就任時の71.2%（平成30年9月1日時点）から95.4%（令和6年9月1日時点）へ24.2ポイント向上させた。</p> <p>また、学校を核とした地域づくりを推進し、町内に義務教育学校を2校新設するとともに、バリアフリートイレの設置やスロープ等による段差解消など校舎等のバリアフリー化を進め、教育環境の充実に貢献した。</p>

3 保健体育に功労のあったもの

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1 個人	こばやし たかき 小林 高樹 (60歳)	井原市立高等学校 校長	<p>令和2年度から2年間にわたり、国立教育政策研究所主催の教育課程研究指定校事業において、「学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究」に携わった。県教委の「学校部活動方針」実践推進事業においては、モデル校として「エビデンスに基づいた運動部活動の実践」をテーマとして、「生徒が主体的に部活動に取り組み、自立型のチームを構成する」ことを目標に成果を上げるなど、保健体育を専門とする管理職として主導的な立場で取組を推進した。</p> <p>また、岡山県高等学校体育連盟調査研究部長として、令和5年度全国高体連研究大会において、「健康と安全」の分野で「運動部活動による心身の健康への影響について」をテーマに研究を行った成果を発表するなど、合理的かつ効率的・効果的な運動部活動の推進につながる取組を行い、その成果を広く県内に普及することに尽力した。</p>
1 団体	こうえきしやだんほうじん おかやまけんせいようしきい 公益社団法人 岡山県栄養士会	会長 さかもと やちよ 坂本 八千代	<p>令和4年度から県教委の「学校部活動方針」実践推進事業において、岡山県栄養士会の公認スポーツ栄養士がモデル校のアドバイザーとなり、モデル校で勤務する栄養教諭へ食に関する指導方法やデータ処理について助言を行うことで、栄養教諭の資質向上と食育の推進に貢献した。</p> <p>また、生徒へのスポーツ栄養士の直接指導により、補食を摂ることによる運動のパフォーマンスの向上や、朝食を毎日食べる生徒の割合の増加等につながるなど、生徒の食に関する意識を高め、生徒の食生活の改善に尽力した。</p>

4 生涯学習及び社会教育に功労のあったもの

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1 個人	わしみ みちひろ 鷲見 道弘 (83歳)	岡山県渋川青年の家のアドバイザー	<p>昭和43年4月から平成11年3月まで及び平成13年4月から16年3月まで、岡山県渋川青年の家の職員として、同施設での研修の企画・運営に深く携わり、青少年の体験活動の充実に尽力した。</p> <p>平成20年4月から現在まで、長年にわたり、同施設アドバイザーとして、青少年教育施設職員としての姿勢に始まり、船舶航行技術、天候、天文学、カッター指導、ロープワーク、船舶機器や施設設備品の修繕・点検等について職員を指導し、同施設の安全な海事研修の実施に貢献した。</p>

5 文化に功労のあったもの

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1 個人	さえき つよし 佐伯 豊 (81歳)	岡山県銃砲刀剣類登録審査委員	<p>平成18年から公益財団法人日本美術刀剣保存協会に入会し、日本刀の保護・普及を始め、長年の経験から日本刀に関する深い造詣を持っている。</p> <p>平成27年からは県教育委員会の銃砲刀剣類登録審査委員を務め、長年にわたり数多くの銃砲刀剣類を適切かつ厳重に審査した。</p> <p>また、複数名いる銃砲刀剣類登録審査委員の中でも、経験年数が長く、他委員の指導・助言に当たるなどリーダー的な存在となっており、本県の文化財保護に貢献した。</p>

6 特殊な業績をあげ功労のあった者

該当なし

7 特に優れた教育活動を行いその業績が奨励に値する者

※年齢は、令和7年10月31日現在

	氏名	現職	表彰事由
1	たにぐち やすな 谷 口 泰 奈 (41歳)	倉敷市立葦高等学校 養護教諭	教職員等中央研修を受講し、健康教育や保健管理について幅広く学び、研修の成果等を県内に共有するなど、本県の学校保健の推進に貢献した。 新規採用養護教諭研修では、学校講師を担い、自校での学校保健組織活動の救急体制づくりの事例として、教職員を対象にした様々な状況を想定しての実践的な校内研修を紹介するなど、後進の育成に尽力した。
2	おぎはら たすく 荻 原 資 (40歳)	倉敷市立味野高等学校 教諭	校内OJTに率先取り組み、若手職員の育成に尽力するとともに、共通理解・共通実践を合言葉に、一丸となった学校づくりに向けて職員の結束を図るなど、学校全体を動かす中核的な存在であり、若手教職員にとって優れた手本となっている。 また、岡山型PBL推進事業において、授業公開を行うなど、研究をリードするとともに、研究の成果を地域に広め岡山型PBLの推進に貢献した。 校内においては、研究主任として、「見通し」の持たせ方を工夫する方向性を示し、岡山型PBLの研究を推進している。
3	もりかわ ゆい 森 川 唯 (37歳)	倉敷市立玉島南小学校 教諭	算数の専科教員として複数学年を担当し、持ち前の授業力で児童の「分かる、できる」楽しさを引き出した学力向上に貢献するとともに、授業改革推進員と連携しながら、個々の授業改善に加え、研究副主任として、校内研究と絡めながら全教職員の授業改善に向けたOJT研修の企画に尽力した。 校外においても、自己研鑽を伴う研修の場を常に広げ、研修会において、授業改善についての研究実践を牽引した。
4	なかはら ようこ 中原 洋子 (45歳)	倉敷市立船穂小学校 教諭	平成30年の豪雨災害の経験と教訓を生かし、意欲的に研修を重ねて専門的知識や実践的対応能力を身に付け、「災害時学校支援チームおかやま」の災害支援員として活躍した。 校内では、防災体制の整備や避難訓練の在り方の抜本的な見直しを行い、防災教育の改善に貢献するとともに、若手教職員と積極的にコミュニケーションを取りなど、同僚からも厚い信頼を得ている。
5	みうら みゆき 三浦 深雪 (44歳)	総社市立山手小学校 教諭	教務主任として、会議や研修について従前の体制を改め、若手教職員も意見を述べやすい環境となるように、積極的に見直しを行い成果を上げるとともに、児童の実態を踏まえ、学校教育目標の達成度を上げるために、率先して授業公開を行うなど、優れた授業力や高い学級経営力による落ち着いた学習環境づくりは、他の教職員の模範となっている。 また、他県での勤務経験を踏まえ、学校全体で、新採用教諭の研修を支えていく仕組を企画提案し、自ら示範授業を実践するとともに、新採用教諭の参観授業後には適切な助言を行うなど、教職員の資質能力の向上に貢献した。
6	こうら あきひさ 古浦 彰久 (42歳)	岡山県立岡山操山中学校 教諭	国語科の高い専門性と教科指導力を有しており、生徒の主体的な学びの充実や自己調整力の育成を図る授業実践の研究に尽力した。各単元において、単元を貫くねらいを基に、生徒と一緒に単元計画を作成したり、単元末にレポート課題を設定したりするなどの工夫をするとともに、各単元のゴールを生徒と共有することに加え、デジタル学習基盤の活用や協働的な学びを組み合わせることで、個別最適な学びも視野に入れた授業実践につなげた。 また、授業の基盤となる学級集団づくりに必要な知識・技能を兼ね備えており、ピア・サポートや学校独自教科「コミュニケーション」の授業実践等に取り組んだ。
7	ほしお だいき 星尾 大樹 (39歳)	倉敷市立多津美中学校 教諭	学級経営では、助け合いや友人への寄り添いといった生徒の価値のある行動に気付き、生徒たちに伝えていくことで温かい支持的な風土のある学級づくりを心がけ、「グッドビヘイビアカード」や「友人の良いところ指摘しあうカード」の交換など、様々な手法を使って生徒の自己有用感の醸成を図った。 部活動においては、客観的な事実に基づいた指導を行うことにより、生徒や保護者から大きな信頼を得ている。
8	やまもと あやか 山本 綾香 (39歳)	倉敷市立児島中学校 教諭	国の「先導的なオンライン英語研修実証研究事業」に積極的に参加し、新たな時代の英語教育の在り方を探究するなど、県内の英語教育の質の向上に貢献した。 また、倉敷市からの研究指定を受けて、「生徒指導の視点を生かした生徒の学びと自立支援」を主題に掲げた校内研修の立上げや運営を主導し、研究組織の再編成や各チームの活動方針の明確化、研究テーマに基づいた授業の在り方を提案・実践し、教職員の授業力向上を牽引した。

	氏名	現職	表彰事由
9	にしかわ ひろみ 西川 裕美 (49歳)	津山市立中道 中学校 指導教諭	<p>津山教育事務所管内の授業研究会において、「見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む社会科の授業づくり」をテーマに、管内全体へ提案性の高い授業公開を行い、多くの参加者の見識の深まりに寄与した。</p> <p>校内においては、授業改善のモデル校の指定を受け、授業改革推進リーダーとして、カリキュラムマネジメントの視点を持ち、校内研究、学力向上、教務主任等の各担当者と緊密な連携を図り、学校の組織的な課題を改善することで、授業改善に向けた校内体制の構築に貢献した。</p>
10	かわさき たいき 河崎 太希 (32歳)	総社市立昭和 五つ星学園義 務教育学校 教諭	<p>探究学習について知見を有し、生徒に課題を追究する楽しさを経験させるため、個人が持つ課題を追究する「Zero to One Award」の全学年での開催に尽力した。</p> <p>また、地域学習部の顧問として、部員をまとめ、率先して地域と関わりを持ちながら教材と人材を発掘し、多くの地域の方々を招いて昭和未来フェスティバルを開催するなど、開かれた学校づくりに貢献している。</p>
11	とつとり かいほう 鳥取 海峰 (45歳)	岡山県立岡山 芳泉高等学校 指導教諭	<p>教科指導ミドルリーダー研修や教職員等中央研修の中堅教員研修を修了した経験を生かした優れた教科指導力を基に、校内においては指導教諭として、授業改善に積極的に取り組み、探究的な学びの推進や自己調整学習の在り方の研究に尽力した。</p> <p>校外にあっては、県総合教育センターの研修講師を務めるなど、自らの知識と実践を県内の教職員に積極的に還元した。</p>
12	つかもと けんいち 塙本 賢一 (48歳)	岡山県立倉敷 天城高等学校 教諭	<p>次世代リーダー養成研修講座の受講等により獲得した学校経営参画力や教科指導等の高度な実践的指導力を生かし、岡山県高等学校教育研究会数学部会において、「数学的活動を通して数学を活用する資質・能力を育成する協同学習」と題して、数学科における学習指導の改善を図るとともに、1人1台端末を活用した授業研究に尽力した。</p> <p>校内においては、学年主任として、他の教職員を牽引し、学年の学力向上に成果を上げた。</p>
13	よしさわ ともみ 吉澤 智美 (42歳)	岡山県立津山 商業高等学校 指導教諭	<p>教科指導力に優れており、初任者研修や岡山県教育課程研究協議会の学校講師を務めた。岡山県教育課程研究協議会では、地元企業と連携した授業の取組や特色ある授業実践を紹介するだけでなく、参加した商業教員に積極的に助言するなど、県内の商業教育の発展に貢献している。</p> <p>校内においては、商業科長を務め、商業教育を牽引するとともに、地元商店街を会場に全校生徒で販売を行う津商モールの取組では、コロナ禍にオンライン販売を行ったり電子決済を取り入れたりするなど、新たな取組にも尽力した。</p>
14	やまもと しげき 山本 茂樹 (44歳)	岡山県立岡山 工業高等学校 指導教諭	<p>校内の総合的な探究の時間の学習プログラムであるO C P (O k a k o Creative Project)における中心的な運営の役割を担っている。</p> <p>岡山県教育課程研究協議会においては、学校講師を担い、O C P等の実践発表を行うことで、県内にある9つの工業科におけるP B Lの推進に尽力した。</p> <p>また、担当する土木科の座学でチームビルディングを意識し、P B Lを用いた授業を実践して、生徒の資質・能力の向上に寄与した。</p>
15	みよし さきこ 三好 咲子 (43歳)	岡山県立岡山 瀬戸高等支援 学校 教諭	<p>特別支援教育コーディネーターとして、校内の特別支援教育推進に係る中心的な役割を担うとともに、県教委から特別支援教育エキスパートとして任命され、地域の学校等からの相談等に丁寧に対応し、特別支援教育の推進に寄与した。</p> <p>自立活動への造詣も深く、自立活動の指導に係る校内の教職員の専門性向上にも日々尽力するとともに、教職大学院では、知的障害教育における自立活動の指導の研究・発表を行い、岡山県の特別支援教育のさらなる推進に寄与した。</p>
16	たにふじ たかゆき 谷藤 隆行 (40歳)	岡山県立誕生 寺支援学校 教諭	<p>知的障害教育におけるプログラミング教育により、野崎教育賞を受賞しており、岡山県特別支援教育教育課程等協議会等においては、知的障害教育におけるプログラミング教育の在り方についての研究成果を発表するなど、I C Tを活用した岡山県の特別支援教育の推進に寄与した。</p> <p>おかげま教育フォーラム教育講演会では、「これからの中学校教育と教職のやりがい」をテーマに行われたトークセッションで登壇するなど、専門性を生かした内容で、普段から校内外を問わず、特別支援教育の推進において中心的な役割を担っている。また、教務をはじめとした学校運営においても中核的な存在として活躍している。</p>

8 公立学校で特に業績のあったもの

学 校 名	代 表 者 名	表 彰 事 由
1 美作市立むさしこども園	園長 萩原 あかね	<p>「じぶん」「ともだち」「しぜん」の3つの柱をベースにした0歳から5歳までのつながりを持たせた保育を実践した。また、「自己肯定感を育む」「温かな感情の芽生え」「思いやりの気持ち」の視点で、幼児の自然との対話を楽しむ姿の記録や振り返りを行う研究を進めた。</p> <p>本研究を通じ、職員は、子どもと自然をつなぐための環境づくりや援助のポイントを共有することができた。また、子どもたちは、いのちに出会い、関わる体験を積み重ねることで、園内では子どもたちの小さないちに真剣に向き合う姿や、友達のよさに気付き、思いやりの気持ちを持って関わる姿が見られるようになるなど、園内に温かい雰囲気が醸成され、子どもたちの自己肯定感の高まりにもつながるなど、幼児教育の充実に成果を上げた。</p>
2 倉敷市立味野小学校	校長 小野 明子	<p>岡山型PBL推進事業の研究指定を受け、「他者との関わりから、自分事として課題を捉え、粘り強く探究する子どもの育成～岡山型PBLの考え方を活用した授業実践を通して～」を主題に研究に取り組んだ。</p> <p>また、総合的な学習の時間において、子どもの言葉や、子どもの気付き・考えを軸にした独自の単元構想図を作成し、小単元ごとに評価規準を作成して子どもに示し、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にした。</p> <p>本研究に取り組むことで、子どもたちは課題解決のために必要な力や、学校や地域社会をよりよくするために他者との対話を通じて提案・貢献する力を身に付けることにつながった。</p>
3 倉敷市立万寿東小学校	校長 佐野 薫	<p>校務分掌に、組織として「学級経営プロジェクト」を位置付け、学級経営に関する研修会を年4回実施し、Q—U等のアセスメントに基づいた学級経営の理論を学んだり、学級経営の取組について教職員間で情報共有をしたりすることで、学級の課題や変容について継続的に検証し、学級経営の改善に取り組んだ。</p> <p>学級経営通信「GROW UP」や学級経営の取組をまとめた「万寿東小版学級経営ハンドブック」を作成することで、生徒指導提要に示されている生徒指導の実践上の4つの視点を大事にした学級経営を構築した。</p>
4 笠岡市立神島外小学校	校長 田井 好美	<p>小・中学校合同避難訓練での海沿いを通る避難経路は安全なのかという問題意識を踏まえて、神島外浦の「防災」について探究的な学習を展開した。取組の中で児童自らが企画者となって、地域の方々と一緒に避難訓練を実施し、下級生や地域の方々に向けて情報発信することで、児童・地域の方々の防災意識の向上に寄与するとともに、近隣の中学校との合同での避難訓練の実施方法や学校の防災に関する危機管理マニュアルの改善につながった。</p> <p>取組の成果を動画やスライドにまとめて、笠岡市生涯学習フェスティバルや「おかやま学びたい賞」において発表するなど、県内への普及に尽力した。</p>
5 倉敷市立玉島東中学校	校長 藤本 洋子	<p>令和5年度から2年間にわたり、「自ら学び、豊かに表現し、意欲的に活動できる生徒の育成(効果的なICT活用の推進)～「できる」をみつける・ふやす・のぼす～」を研究主題に定め、探究活動を取り入れた授業実践をする中で、効果的なICT活用の方法を検証した。</p> <p>研究の中では、「生徒に身に付けさせたい資質能力」は何かを大切にした上で探究活動を行うため、生徒が主体的に学ぼうとする学習活動や、効果的なICTの使いどころを各教科で協議して実践を行った。</p> <p>実際の授業では、生徒自身が主体的に1人1台端末を活用している姿が見られるようになるとともに、教職員もICTの活用について思考し、協議することで、意識が変化し、指導方法・技術の向上につながった。</p>
6 岡山県立瀬戸南高等学校	校長 古澤 氏由児	<p>「いのちと心の教育で人づくり」を教育目標とし、地域等との連携により、それぞれの専門分野で主体的に活動し、社会の発展に貢献する人材の育成に取り組んだ。</p> <p>農業科では、高校生まちづくりコンテストにおいて、ブランド卵の開発等農業の活性化とアグリツーリズムの提案を行うなど、地域課題の解決に取り組むとともに、農林水産省主催の「みどり戦略学生チャレンジ」では、キノコの栽培工場から出る木くずを畑の肥料に活用する取組で優秀賞を受賞した。</p> <p>家政科では、子ども食堂へ食器の滑り止めになるランチョンマットの寄贈、小学校の出前講座におけるミシンでのナップザック作りの指導等、専門分野の学びを生かした地域貢献活動に取り組んだ。</p>